

第1回「安全を持続的に確保するための  
今後の河川管理のあり方検討小委員会」  
主なご意見（案）

■河川の管理の仕組み

- 大河川のみならず、中山間地域や農地地域の河川、二級河川なども含めた議論を。
- 堤防については点検結果の蓄積と活用が重要。
- 中小河川を含めた全国的なデータの集約と共有が必要。ICT技術の活用を。
- 財政状況が厳しい中で施設の老朽化等が進み、このままでは非常に危険な状態になりかねないことを広く知って頂くべき。
- 人や予算が減る中で、資格制度の創設等による経験者活用を。
- 構造物に関してはアセットマネジメント、予防保全が可能ではないか。
- 耐震対策とメンテナンスの総合的な取り組みは喫緊の課題。
- 機械設備に関しては、長寿命化対策に着手済み。今後、老朽化対策と予算について中長期的に考えていくべき。
- 管理技術の高度化の点で、ユビキタスの活用を。
- 住民の生活環境の視点での河川管理も必要。

■資源・エネルギーとしての河川の再認識と担い手の再構築

- 刈草の処分については法令上の問題を明らかにしたうえで対応策を。
- 刈草、伐木処分にあたっては資源として有効活用しやすい仕組みの構築が必要。
- 河川に愛着を持っている人々に管理に如何に関わって頂くか。その際情報技術の活用を。
- 水循環・物質循環、水力（エネルギー）、土砂管理など社会的、広域的課題に如何に寄与するか。
- 予算が厳しい中で、民間資本の活用は重要な視点。

■社会的な要請への対応

- 河川の管理に関する思考モデルの転換が必要。水質事故、海岸管理などの新たな課題に如何に関わっていくか。
- 広域にまたがる水質事故対応においては、河川管理者が積極的に関与すべき。
- エコロジカルネットワークにおいて、地域の取り組みをつなぐシステムの構築を。
- 河川空間を活用した賑わいの創出が課題。そのための不適正利用の是正は重要。

■河川の現況安全度を超える洪水が多発する中での管理

- 近年、過去最高水位を更新する出水が頻発。このような事態へ如何に対応するか。